

瀬戸際に立つ「憩の園」経営

聖母マルガリーダの精神いつまで

通常収入では経費の半分以下

戦争中の1942年から日本移民を助け続けてきた伝統を持つ「救済会」の園がすぐに潰れることはないにしても、「今までのあり方」を守り続けるという意味では、瀬戸際に追い詰められている。救済会（佐藤直会長）の第65回定期総会が11日午前、文協ビル5階で開催され、議事自体は次々にすんなりと承認された。でも例年にないほど多い70人の参加者には、そんな切羽詰まった雰囲気はひしひしと伝わっていた。



「ドナ・マルガリーダの精神は当面変えるつもりはない」と説明する佐藤会長

総会議長を務めた本田泉専務理事は、「救済会の基本方針は創立時から変わらぬ」と。これはドナ・マルガリーダ渡辺が創立した時からのものであり、今も変わらない。もし同じ

年で同じくらしい健康状態の人園希望者が二人いたら、経済状態が悪い人を優先して入園させてきた。でもその結果、財政状態は年々悪化するばかり。今のところはそれを続けているが、「と窮乏の基本的な構図を説明した。

小川英輔会計理事に話を聞くと、救済会が運営する「憩の園」には70人余りが入園しており、うち約20人が自立者、残りに50人ほどが寝たきりの多い要介護者。毎月約15万レアルの運営経費がかかるが、通常収入である家族からの支払いと会費では20万レアル程度しか集まらない。足りない分の25万レアルは、寄付とイベント収入で補っている。会員は減るばかりだが、福祉関連の法律は年々厳しくなる一方で、人件費は増える。創立時は20人の職員で100

大目

小目

救済会に新品や古い衣服や家具、中古家電品（故障品でも可）を寄付する場合は、電話（11・2480・2256）

11・2480・42

人の面倒を見ていたが、現在は医師や専門家を含めて約100人のスタッフが入園者70人の面倒を見る体制になっている。経費の4分の3はこの人件費だという。昨年赤字会計にしないために所有地の一部を売却した。それがあつたから昨年の総収入612万レ、総支出540万レと黒字になった。だが今

03)すればトラックで回収に来る。またノック・フィスカル・パウリスタ(NFP)の寄付も可能。店やレストランで「NFPがいりますか?」と聞かれたら、「CPFなしで」と注文し、出されたNFPを次の20日(できれば2日前)までに救済会事務所(文協4階)に持っていけば寄付になる。もしくは憩の園サイトの寄付ページ(koimono.org.br/wordpress/ndp.html)からそのNFPの番号を登録すれば寄付になり、事務所に行く必要はない。問い合わせ

を減らして、その分、介護者も削減すること。一次的に減らして景気が良くなつたら戻せばいいのでは」と提案した。

それに対し、佐藤会長は「確かに財政は均衡させなければならぬが、ドナ・マルガリーダの精神は当面変えるつもりはない。理事会はさらに手を尽くしたい。皆さんも協力を」と呼びかけた。

オザスコで白熱、聖南西相撲

聖州予選兼ね地元が男女総合V

聖州オザスコ文協で58回、女子は第18回。聖南西文化体育連勝を果した。

聖南西文化体育連勝を果した。

聖州大会の予選を兼ねた聖南西相撲選手権がオザスコチームが総合優勝した。男子は第3